

講義と演習で学ぶ

保健医療 行動科学

日本保健医療行動科学会 編



教科書『講義と演習で学ぶ保健医療行動科学』

(2017 年 3 月 10 日発行)

日本保健医療行動科学会は社会貢献の一環として、教科書『講義と演習で学ぶ保健医療行動科学』（学会雑誌第 31 巻別冊 A4 判 120 頁）を発行します。会員のみならず（2016 年度会費納入者）には無償で配付されます。非会員の皆様には ¥2,000（送料別）でお分けできますので、本学会事務局（info@jahbs.info）までお申し出ください。なお、後日、本学会 web サイトでも PDF 版を公開予定です。

本企画のきっかけとなったのは、アメリカの ECFMG（Educational Commission for Foreign Medical Graduates）から、2010 年に出された通達です。ECFMG とは、アメリカ・カナダ以外の国の医科大学出身者がアメリカで医療行為を行う場合の資格審査機関です。通達の内容は「2023 年以降は国際認証評価を受けていない医科大学の出身者には申請資格を与えない」というものでした。この国際認証評価を医科大学が受けるためには、基礎医学や臨床医学とともに「行動及び社会科学と医療倫理」を必修科目としていなければならないのです。

本学会会長の中川晶は、本書冒頭の「行動科学とは」という項目において、次のように述べています。「ラットの実験ではかなり一律な結果が出て、人間では相当にバラついた結果になる。人間の場合は生理学的、心理学的、文化的多様性があるためである。」「これまで自然科学に依拠していた医学そのものの体質を、変えていかねばならない。心理学、社会学、文化人類学、歴史学など、人文科学と呼ばれる分野が蓄積してきた知識も、医学に役立てていく必要がある」。

本書は医学者、保健学者、看護学者、心理学者、教育学者、社会学者、文化人類学者、社会福祉学者、哲学者など、本学会に所属する多様な専門家によって執筆されており、しかも、講読によって知識が得られるだけでなく、演習を通してアクティブに学習できるよう、工夫されています。我が国の保健医療分野の行動科学教育に、大いに貢献するものと確信しています。

内 容

発刊にあたって

I 講義編

- 1 行動科学とは
- 2 保健医療行動
 - 1 保健医療行動とは
 - 2 動機づけ理論
 - 3 行動変容ステージ
 - 4 社会的背景
 - 5 文化的背景
 - 6 哲学的背景
- 3 患者-医療者関係とコミュニケーション
 - 1 患者-医療者関係
 - 2 患者の権利と医療者の義務
 - 3 コミュニケーション技術
- 4 保健医療専門職のプロフェッショナルリズム
 - 1 医師
 - 2 歯科医師
 - 3 看護師
 - 4 助産師
 - 5 保健師
 - 6 リハビリテーション職種
 - 7 ソーシャルワーカー
 - 8 カウンセラー
- 5 多職種・市民連携
 - 1 チーム医療
 - 2 患者・家族会
 - 3 地域包括ケア
 - 4 病院ボランティア

6 様々なアプローチ

- 1 動機づけ面接法
- 2 コーチングとティーチング
- 3 ナラティブ・アプローチ
- 4 セルフマネジメント支援
- 5 カウンセリング
- 6 回想法
- 7 認知行動療法
- 8 ソーシャルワーク
- 9 ホリスティック・アプローチ

II 演習編

- 1 価値交流学习
- 2 コミュニケーション技法1：反応を示しながら聞く
- 3 コミュニケーション技法2：要約する
- 4 コミュニケーション技法3：共感する
- 5 会話のときの姿勢
- 6 ナラティブ・クエショニング
- 7 要求の明確化
- 8 自己イメージ法
- 9 色彩イメージ法
- 10 協力ゲーム
- 11 多職種連携のためのケーススタディ

索引

執筆者